

The way is open where there is a will

～意志あるところに道は開ける～

キャリア教育部通信 第5号

令和3年11月1日

中学生の皆さんへ

キャリア教育部

今回は、「自分のやりたい・なりたいこと」が少しでも見えてくるように、「なくなる仕事・変わる仕事」「生まれる仕事・伸びる仕事」を簡単なコメントと共に見てみましょう。

なくなる仕事・変わる仕事

・営業職

機械は嘘をつかないので、信頼される。人間よりもA Iが信頼されるようになると「この人なら買っていい」と思われるような、お客さんがついている営業職だけが生き残れるようになる。

・現場監督

作業員は残るが、現場監督はA Iと少人数の人々で十分。

・エンジニア

安価で技術を学べる学習サービスが次々に誕生し、エンジニアは安くなる。

・弁護士

弁護士の仕事は過去のデータに基づいて判断することが多い。給料の高い弁護士はA Iでコスト削減の対象となる。

・会計士、税理士、社労士など

会計士や税理士、社労士など法律をベースにした仕事はA Iの得意領域。間違いなく減っていくだろう。

・スポーツの監督

A Iは判断する機能に長けている。名将にA I監督が勝つ時代へ。

・介護職

介護職はサービスの在り方が変わる。仕事は最適化され、対話など人間にしかできない仕事の価値が総じて高くなるだろう。

・警備員

警備員はA Rのゴーグルで見張る時代。機械がアラートを出したらその人を捕まえに行く。

・教員

A Iは個々の生徒に合ったカリキュラム設計ができる。

- テレビ
マスメディアでいるにはインターネットやスマートフォンよりも楽しいコンテンツを作ることが必要不可欠になるだろう。
- 事務職
事務職が存在する理由は人間のほうが低コストなだけ。
- 倉庫業務
倉庫のピッキングは、今後のA Iの開発次第。
- 窓口業務
窓口業務は人間のほうがいいか？なんでもスマートフォンで申請できるなら、誰も窓口まで足を運ばないだろう。
- 銀行員
銀行員はおろか、銀行すらいらなくなる。これからは生存戦略として銀行の機能が変わっていく
- 運送業
重い荷物と運び込み以外、ドローンと自動運転で十分。
- ドライバー
自動運転がドライバーのニーズを消し去る。運転をしないということは車内で仕事をしたり、メールを打ったり、音楽を聴いたり、居住空間にも近い状況が生まれる。
- 農業
農業は機械化で人を豊かにする。
- コンビニのレジ打ち
コンビニのレジ打ちはもうなくなり始めている。
- 書店
本以外と本と情報の関係性をキュレーションするサロンのものになっていくのかもしれない。
- 編集、校正
本の編集作業は人間。校正や文字起こしは機械。

生まれる仕事・伸びる仕事

- 個人経営のお店
志とこだわりをしっかりとった個人経営の店は、一定数のフォロワーができるだろう。こだわりがあり、アーティスティックなものの価値はより高まっていく。
- 職人
生き残っていく職人たちは自分たちの技術や能力をいかに機械で再現できるかを考え、研究・実践している。「A Iを使いこなす」考え方をしているのだ。

- ・ドローン
空撮、測量、ビルの壁面の点検など幅広い仕事で使われ始めている。農業分野でも力を発揮するだろう。
- ・ショービジネス
人間にしかできない仕事の価値が一層上がっていく。ショービジネスなどがその代表例だ。
- ・一億総クリエイター時代
人間にしかできない仕事の価値が上がった未来になれば、誰もがエンターテイナーやアーティストになる。これまでに聞いたこともない仕事が生まれてくるだろう。
- ・予防医療
日本は予防医療が海外の先進国に比べて立ち遅れているからチャンスも大きいのではないだろうか。
- ・感情のシェア
これからの幸せの指標。楽しい・嬉しい・気持ちいいといった感情をシェアすると、そこにたくさんの賛同者が集まる。
- ・観光業
ちょっとマイナーなアクティビティやそこでしかできない体験を提供するサービスは、今後重宝されるだろう。重視されているのは現地に行かないとできない体験だ。
- ・音声認識技術
誰もが望むシステムは伸びる。Siriなどの音声認識技術が急速に進化している。
(10年後の仕事図鑑 堀江貴文・落合陽一著 SB Creative より、詳細は必ず確認してください)

今ある職業をイメージして将来を考えるのではなく、AIを含めた技術革新を見据えて変化することを前提に考えることが重要です。家庭や友人同士で変化する新しい社会について夢をもって語り合しましょう。そして、人々が幸せな気持ちになるような新しいサービスを提供して、自分も楽しみながら生きていけるようにしていきましょう。

つばさ総合高校では、1年次の科目「産業社会と人間」の中で職業人インタビューを行っています。AIやドローンの活用など発展性のある職に就いている人やゴミやエネルギーなどの地球規模の課題に取り組んでいる職業人について、生徒がインタビューをしています。

3年生の中にはAIの発展・ドローンの活用を見越して、地方の農業大学校への進学を希望している生徒がいます。

全員ではありませんが、5年後・10年後を見据えて、自分の進路をしっかりと考えられる生徒が増えています。